

授業改善書

科目名	心理学研究法 I
担当者	小島 弥生

授業の概要

心理学領域で卒業論文を執筆することを希望する学生(主に2年生)に対し、心理学の多様な研究方法について概説し、主要な研究方法の1つである「実験法」について、実際に知覚実験を実施し、実験レポートの書き方の基礎を訓練することを目的とした授業である。

授業の問題点

今年度は人間文化学科が「コース制」から「領域制」に切り替わって3年目にあたり、領域制のカリキュラムで学んでいる学生が本授業の主要な受講生学年となってから2回目の授業である。昨年度までの大きな違いとして、1年生のときに心理学関連の授業(心理学概論 I・II、心理学統計法 I)をいっさい履修していない学生でもある程度の自習が可能のように、実験法の解説・実験レポートの書き方の基礎の部分に関しては、担当者作成の授業プリントではなく教科書を導入してみた。

しかし、その他の講義内容(心理学の多様な研究方法の概説や、心理学研究に取り組む姿勢等)に関しては、昨年度までと同様、担当者作成の授業プリントを利用した講義を行った。その結果、教科書の記述(かなり易しい教科書をあえて採用した)と、授業プリントの記述(ある程度硬い表現で記した)とのギャップが生じた。それが、学生による自由記述での「資料が分かりづらい」という評価につながった可能性があると考えている。

授業改善の課題・方策

教科書の記述レベルにあわせて授業プリントの記述を修正することを改善の方策として検討する。ただし、教科書を使わずに授業プリントだけで授業を構成していた前年度までの、「資料の適切さ」に対する評価は概ね4.5前後で推移していたため、授業プリントの内容自体が不適切であるとは考えていない。今年度の評価に関しては、教科書を導入したために教員作成プリントとのギャップが生じたためと理解しており、内容は極力維持したまま、表現を中心に修正を試みたい。

心理学の内容に関する講義とは異なり、本授業は「実際に学生が心理学の研究に取り組むことを前提とした基礎知識の提供」を主目的としているため、心理学に関する知識のまったくないままに授業を受けるには、それ相応の困難さがあると考えている。受講学生には、前年度までに心理学関連の諸授業をできるだけ受講してほしいと強く望みたいし、領域制では前年度までに関連授業を履修していなくても学生の履修は認められるが、関連授業の事前履修をしないままに受講する学生に対しては、学期の始めに「相応の自学自習が必要なこと」をきちんと説明した上で、覚悟をもって履修してもらうことを、今後注意喚起することで改善の方策としたい。

その他